

活用方法ガイド

ダイレクトパートナー

1. LINE公式アカウント使い方
2. ご紹介までの流れ、コツ



1. LINE公式アカウント使い方

順番

①パートナー登録

まずは仮登録→URL発行→DC導入案件が決まったら本登録

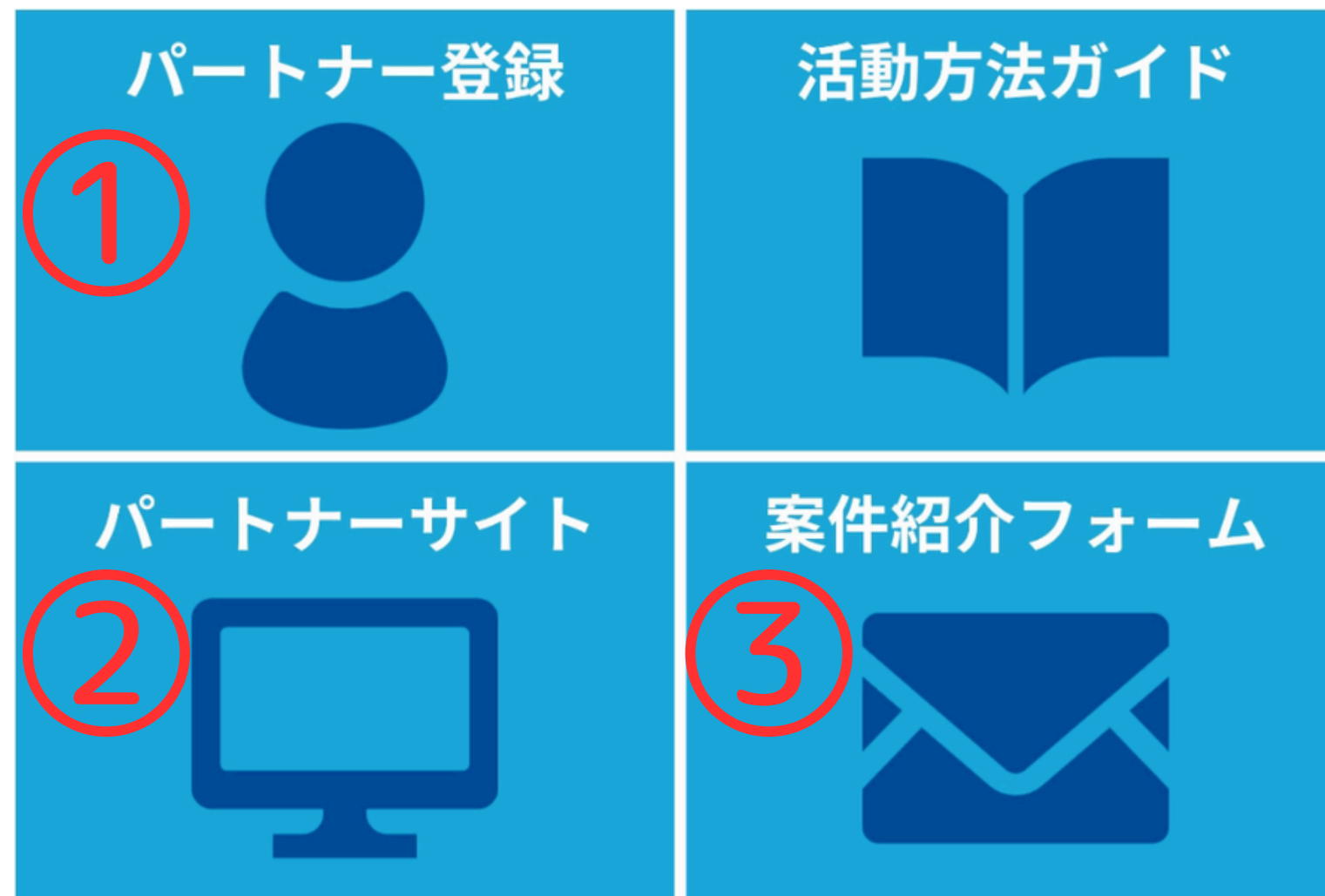
②パートナーサイト

案内用ツールから動画や資料をダウンロード→顧客に紹介
※P3に詳細

③案件紹介フォーム

面談希望者現れたらフォーム入力→面談予約手続き
※P8に詳細

LINE公式アカウントメニュー画面



②パートナーサイト説明

☆案内用ツール

営業ツールをダウンロードし、顧客に簡単な紹介ができる



☆学習用動画

基本プレゼンなどを学習し、制度への理解を深めることができる



DC案内用

案内用ツール

1	DC案内チラシ	20240628
2	ショート動画	動画QRコード
3	DCプレゼン資料	スクリプト

[案件紹介フォーム](#)はこちら

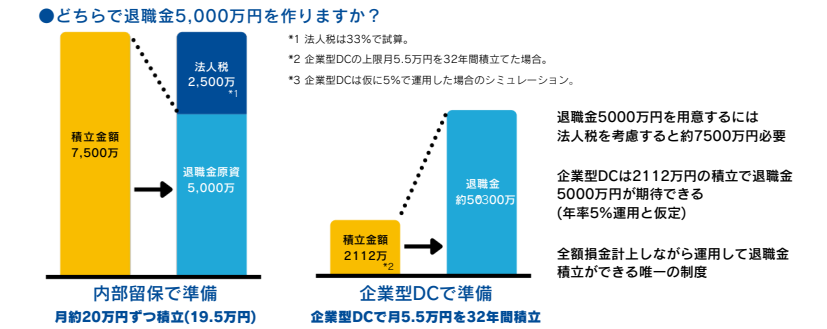
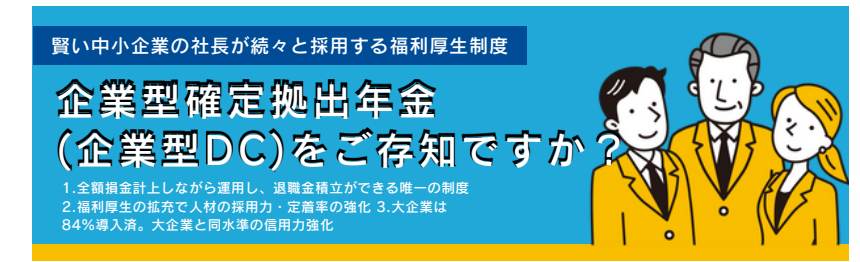
学習用動画

1	基本プレゼン動画	26分間
2	基本プレゼンの解説	30分間
3	チラシの目的	6分間
4	チラシの解説	6分間

2. ご紹介までの流れ、コツ

伝える
コツ

企業型DCってご存じでしょうか？ (チラシをだす)



全額損金計上しながら運用し、退職金積立ができる唯一の制度です

☆社長のメリットに特化

⚠️ メリットを伝え過ぎると成約率が落ちる

説明のしすぎはNG！

引き算を意識

知れば知るほどしゃべりたくなるけど…控える

約2、3分

トーク スクリプト

①二択投げかけ

社長、5,000万円の退職金を作る場合、どちらを選びますか？

②まとまった 数字で比較

通常、法人の利益で貯めて内部留保で退職金5,000万円用意するなら約7,500万円の利益が必要です。

一方、企業型DCで準備するなら…2,112万の積立で5,000万が期待できます！

社長、コレどう思われますか・・・？

③総額の差額

7500万円と、2112万円。実に5388万円の差です！

同じ5000万円の退職金を作るのに、5300万円以上も積立額に差があると、比べるまでもないですよ！

コレが実現できるなら、この5300万円以上の差額は、もっと他のために資金を回せるんじゃないでしょうか？

④毎月で比較

企業型DCなら毎月55,000円の積立を32年間積み立てると2112万円になりますので、5%の運用で5,000万円を目指せます。

同じ期間(32年間)で内部留保で用意する場合、毎月約20万円が必要です。

⑤毎月の差額

20万円と5.5万円。この毎月14万以上の差も大きいですよ？

同じ準備をするなら…この毎月14万以上の差額は、もっと会社の有意義なお金として使えませんか？

しかも、この企業型DCの毎月5.5万円は、全額損金ですので、法人税の節減にもなります。

企業型DCは、毎月5.5万円を、全額損金計上しながら運用し退職金積立ができる唯一の制度です。

結果的には、この差額を考えると…社長が最も効果的にこの企業型DCで退職金を準備することは、社長だけでなく、会社と従業員の為にもなります。

社長1名からでも、この制度に加入される企業が多いのは…この圧倒的な事実！メリットです！

ロープレ

家族や同僚とロープレをしましょう！

ロープレ6分

- | | |
|---------------------|----|
| ①社長役決める | |
| ②前半ロープレスタート | 2分 |
| ③フィードバック よかったこと、改善点 | 1分 |
| ④後半ロープレスタート | 2分 |
| ⑤フィードバックよかったこと、改善点 | 1分 |

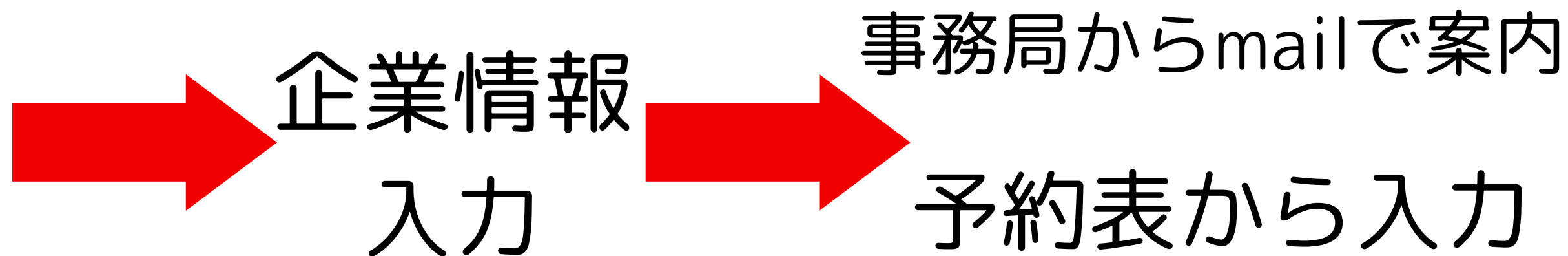
合計 6分

面談
申し込み

紹介のあと：一度詳しいお話を聞かれますか？

YES→面談申し込み手続き

LINE公式アカウントメニュー



まとめ

利益がしっかりでている会社の社長に
成約率が下がるので余分なことをあまり言わず、
費用対効果でメリットが大きいと、ご理解いただければ
導入いただけます。

☆費用は？

『厚生年金被保険者数によりますが、導入費用全部で50万円くらいからです。』

『毎月の運用費用も2.3万円から掛かります。』

『そのうえで皆さんにメリットの方が大きいので、どんどん導入していただいている制度です。』

企業型DCと一緒に広げて、本業の発展にご活用ください